

実技模擬問題 7

【問題】

NPO法人Jの当期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）の実績会計データおよび下記資料にもとづいて、活動計算書、貸借対照表および収支計算書を作成しなさい。

また、活動計算書、貸借対照表および収支計算書について、次の各問に答えなさい。

- 問1 経常収益のうち、金額の多い勘定科目を上位から順に3つあげなさい。
- 問2 人件費の経常収益に対する割合をパーセントで答えなさい。なお、パーセント未満の端数は、四捨五入すること。
- 問3 活動計算書において、貸借対照表の正味財産合計と一致する項目を答えなさい。
- 問4 固定資産の資産合計に対する割合をパーセントで答えなさい。なお、パーセント未満の端数は、四捨五入すること。
- 問5 予算をオーバーした事業費を列举しなさい。
- 問6 当期正味財産増減額がプラスなのに当期収支差額がマイナスとなった理由を説明しなさい。

＜資料＞

- 当法人は、社会教育支援事業、関係団体との交流事業およびカリキュラム研究事業を主な事業内容としている。なお、法人税法上、収益事業に該当するものは行っていない。
- 当法人では、企業会計用の財務会計ソフトに取引データを入力し、財務諸表等は、表計算ソフトで作成している。
事業費と管理費に関する勘定科目は、販売管理費の区分に設定している。管理費に該当する勘定科目については、勘定科目名の先頭に「(管)」を付けている。「(管)」のついていない勘定科目は、事業費に該当する勘定科目である。
経常外収益および経常外費用に関する勘定科目は、営業外収益および営業外費用の区分に設定しており、特別利益および特別損失の区分は使用していない。
- 会計データは、問題の便宜上、同一取引については、まとめて3月末の日付で入力している。
- 消費税については、免税事業者である。
- 収支計算書の差異欄の金額は、予算額から決算額を差引いて算出すること。
- 収支計算書における繰越収支差額は、流動資産から流動負債を差し引いた残額と一致する。